

交通事故ゼロを目指し、交通安全教室を行いました。

4月28日、高崎警察署交通課から講師をお招きし、本校体育館にて交通安全教室を行いました。講話では「自転車安全利用五則」が重点的に取り上げられました。五則のうち、ヘルメットの正しい着用は言うまでもありませんが、とくに重要なことは下記の2点であるということが生徒のみなさんに浸透したのではないかと思います。(生徒手帳にも掲載されています。)

- ① 車道が原則、左側を通行。歩道は例外、歩行者を優先。
- ② 交差点では信号と一時停止を守って、安全確認。

加えて、歩道を通行する場合には、建物寄りではなく車道寄りを走行することによって出会い頭の事故のリスクが大幅に下がるということも説明されました。これは、第I部として先駆けて行った生徒指導主事による説明の中でも大きく取り上げた内容です。

車の運転手とアイコンタクトして安全確認しようということも教えていただきました。さて、アイコンタクトするために必要なことは何でしょうか？ それは、目です。目を見せることです。目が前髪で隠れているとアイコンタクトは難しくなりますね。頭髮に関する学校生活規則とリンクしているのです。

ブレーキは後輪から先にかけるということも初めて耳にするという生徒も少なくなかったようです。正門付近でも、前輪からブレーキをかけてつんのめってしまう場面をこれまでしばしば見かけました。

いろいろなことを人から教えてもらい、自分自身でも常に考え、より良い方法を探っていくことは何事においても大切なことですね。

下に掲載した図は、本校の近隣にあるとても重要な交差点です。通行している生徒も多いと思います。



私は、5年前に本校に赴任してまもなく行われた「ミニマナーアップ運動」の際に、この交差点の担当となり交通指導に当たりました。それ以来、ここが誰もが認めるハイリスクの交差点であると認識するようになりました。長い間、懸念材料だったこの交差点の通行方法について、去る5月8日～11日に行った集中現場指導によって、一つの形を見出すことができたと感じています。

車にとって、朝の時間帯に交通量の多い左右の道路に出て行くのはたいへんなことです。ですから、自転車が歩行者用信号のボタンを押して青にしてくれるのを待っている車が多いのが現状です。つまり、自転車が歩行者の役割を果たしてくれることに、車は依存しているのです。この交差点は、私たちが共存する社会の縮図のようです。ここの秩序を保ちつつ上手に生きていくための肝を下に示しましょう。(詳細は図中に示してあります。)

自転車は車両なので自転車安全五則にしたがい、右側の横断歩道を渡らずに左側走行を維持する。

矢羽根のところで信号待ちをしている間に、必要な情報をできるだけ入手しておこう。たとえば、

- あなたの隣に停止している車は、直進しようとしているのか？ それとも左折なのか右折なのか？
- 交差点が斜め左方向に曲がっているが、前方に停止している車は、直進・左折・右折のいずれか？
- 塀があって完全に死角になっている左側の様子を、正面のミラーを使って確認しておく。
- 左右の道路は時々渋滞することがあるが、今はどんな状況か？ 流れている？ 滞っている？
- 右側にある信号待ちエリアに自転車はどのくらいたまっているか？ あふれていないか？

などです。全てのことがつながっていますから、何か一つでも変化すれば全体に影響が及びます。信号待ちは休息ではなく、そういうことをするために使う時間であると認識しましょう。予習をしていないと臨機応変に動くのはなかなか難しいものですよね。

お昼の中庭が大人気 lunch on the bench



日向に4組、木陰に1組。 教室棟の改修工事が終わってようやく中庭が活気づいてきました。萌黄色のベンチは2020（令和2）年夏、当時の生徒教職員の有志“中庭のベンチをきれいにし隊”によってリニューアルされました。インターロッキングブロックは2022年春、きれいに磨かれました。

県高校総体 主な結果

- 新体操部 団体優勝 関東大会出場へ
 - 体操(部) 個人入賞 関東大会出場へ
- おめでとうございます

5月は春の「いじめ防止強化月間」です。

自分をたいせつにするのと同じように他の人をたいせつにする。

高東506人の生徒に個性が506通りあります。自分の価値観だけで判断しないことです。人生の歩み方にも通じますね。

群馬県公式サイト「ぐんまスマイルライフ」より →



夏服（スラックス・スカート）の準備を進めておきましょう。

本校では6月30日までは移行期間ですが、暑さ対策を必要に応じ進めてください。インナー（上衣）についての注意点を確認しましょう。（生徒手帳を参照のこと）

- ・白色を基調としたもの
- ・シャツやポロシャツの襟や袖からはみ出さないもの

授業中の水分補給について

授業中にやむを得ず水分補給をする場合には、授業の進行の妨げにならないように十分に配慮して行う。

SHR や授業中に、飲食物を机の上に置かない。（生徒手帳を参照のこと）

上記の下線を付した部分はどういう意味なのでしょう？

一言で言えば「マナー」です。

たとえば、先生がみなさんの方を向いて説明している場面で、先生の方を向いてゴクゴク飲む、というのはどう見ても不自然ですね。では、先生が黒板の方を向いている場面で一口飲むというのはいかがでしょうか。品がいいですね。

もちろん、タイミング良く先生に一言断ってから、というのでもよいと思いますが、先生が熱弁をふるっているときはちょっと気が引けますよね。我慢ですね。

いずれにしても、みなさんのセンスが問われる（マナー感覚を養うことができる）場面ですね。

持ち主の元に戻った POCHACCO

去る5月11日、県高校総体壮行会のときに鍵の落とし物について紹介しました。なんと無事に、落とし主のT大学の女子学生の元に戻ったのです。そこに至るまでの過程で、東高生が機転を利かせて優しく対応してくれたことがわかりました。ほんとうにありがとう。 **これは POCHACCO ではありません →**



その日の朝、私はある交差点での交通安全指導の4日目を迎え、これにて一区切りつけようとして決めて臨んでいました。8時35分、おそらく最後と思われる生徒の横断を無事に見届け、学校へ引き上げようとしていたところ、近くに一台の軽自動車が見え、東向きに停車。すると、女性が助手席から降りてきて歩行者用信号の押しボタンを押しました。この信号が青になったら渡って学校へ帰ろうと思い、私が渡っていくと、女性は渡らずにそのまま待ち、話しかけてきたのです。その瞬間私は、生徒の自転車の乗り方に関するご指摘をいただくものと覚悟しました。

「健大高崎の先生ですか?」「いいえ、私は東高校の教員です」

「これ、この先の橋を渡ったところに落ちていたのですが生徒さんのものじゃないですか?」と言って、女性は、自転車の鍵のような物を私に見せてきました。

「もしも、東高校の生徒さんの物じゃなかったら健大高崎にきいてもらってもいいですか?」と言って鍵を私に託してきました。

「わかりました。わざわざ届けていただきありがとうございます。」

女性は橋の近くに住んでいるとのことでしたが、この交差点から橋までは400メートルくらい離れており、交通が混雑する時間帯に、わざわざ面倒な右折までして届けにきてくれたわけです。私は、「今日も交差点に立って交通指導をしたからこそ地域とつながることができたのだ」と嬉しく思うと同時に、この鍵を落とし主に届けなければならないという責任を感じました。

幸いなことに、この日の7限には全校集会として壮行会が組まれていました。私は、体育館で全校生徒に直接紹介する機会を得ました。

「サンリオのキャラクターのポチャッコのキーホルダーが付いたブリヂストンの黒い鍵。おそらく自転車の鍵だと思われます。心当たりの生徒はこの後、私のところまで来てください。」

しかし、誰からも申し出はありませんでした。翌日からは県総体が始まるので、健大高崎に聞いてみるのは週明けにしよう決めました。夕方6時を回り、そろそろ退勤しようかと帰り支度をしていたそのとき、グラウンドから戻ったサッカー部顧問の先生が、「鍵を落としたと言っている女性が職員玄関に来ていますよ」と知らせてくれました。私が鍵を手を、急いで駆け下りていくと、若い女性が一人立っていました。

「鍵を落とした方ですか?この鍵ですか?」「そうです! ありがとうございます。」

「ところで、どうして東高校に有ることがわかったのですか?」

「実は、私は今朝、K中学校の生徒の自転車と接触してしまい、ロードバイクに乗っていたのですが、その弾みでチェーンロックの鍵が外れて落ちてしまったらしいのです。」

「K中学校に行ってきて事故の処理が終わり、さっき現場近くの橋のところで鍵を探していたら、ちょうど東高校の生徒が通りかかって、鍵だったら東高校の先生が預かっていますよと教えてくれたのです。」

「そうだったのですね。ケガは無かったですか? 鍵は地域住民の方が拾って、今朝、私がT大学近くの交差点で交通指導をしていたときにわざわざ届けてくれたのです。」

女性は礼儀正しく、安堵の表情で玄関を出ていきました。

人が足を運び、届け、伝え、声を掛け、点だったものが線になりました。物を大事に扱い、人の気持ちをたいせつにして行動した結果、落とし物が奇跡的に元のところに戻ったのです。どこか一箇所でもかみ合わせが違えば為し得なかったでしょう。そのうちの一つのピースに関わることができ、私は幸せな気持ちになりました。と同時に、感動に乏しい日々を過ごしている自分を寂しく思ったりもしました。